

「せごもの」の話
茶わんや生

(二)

二、支那における陶磁器の發達

石器時代のかゝる古い話はこの位にして、その次に陶磁器の發達した時代は支那における明治時代であります。

明代に景德鎮に初めて御器廠を設けたのが、太祖の洪武二年(西暦三六九年)といふ

と洪武三十五年(西暦一四〇二年)といふ説があります。

御器廠といふのは當時支那の帝室供御の器皿を焼造する役所及び工場を指稱するので

この窯が出来たことによつて支那の窯業が非常に發達したことになります。實にこの窯は徳鎮の窯業は明代三百年間から清代二百五十年間に渡る陶

器であり、その两岸は千數百

年前から今日に至るまでに焼

造った陶磁器の破片で丘を成し、堤を成してゐるそつであります。

景德鎮は江西省浮梁河の河

岸にあり、その两岸は千數百

年前から今日に至るまでに焼

造られた陶器が出てゐるそつであります。

この時代に磁器と陶器の區

別が出来てきます。

この製造に用ひる土を、陶

土と申しますが、この陶土を

堅硬土で製造するとジ器が出来

ります。

この陶土で優良なるジ器を

造る土が高嶺と稱する景德鎮

の東方の山で出ましたので、

斯く景德鎮が支那のジ器の

心となつたのであります。

西洋人が「カオリノ」とい

ふのは高嶺の支那音から出た

もので、明の方唇の頃に既に

優等品と認められておりま

す。

西洋人が「カオリノ」とい

ふのは高嶺の支那音から出た

もので、明の方唇の頃に既に

優等品と認められておりま

す。

アーノルト大帝の

努力で作られ、同じ頃ベツア

ーラーにも製陶所が出来ました

アーノルト大帝の

努力で作